

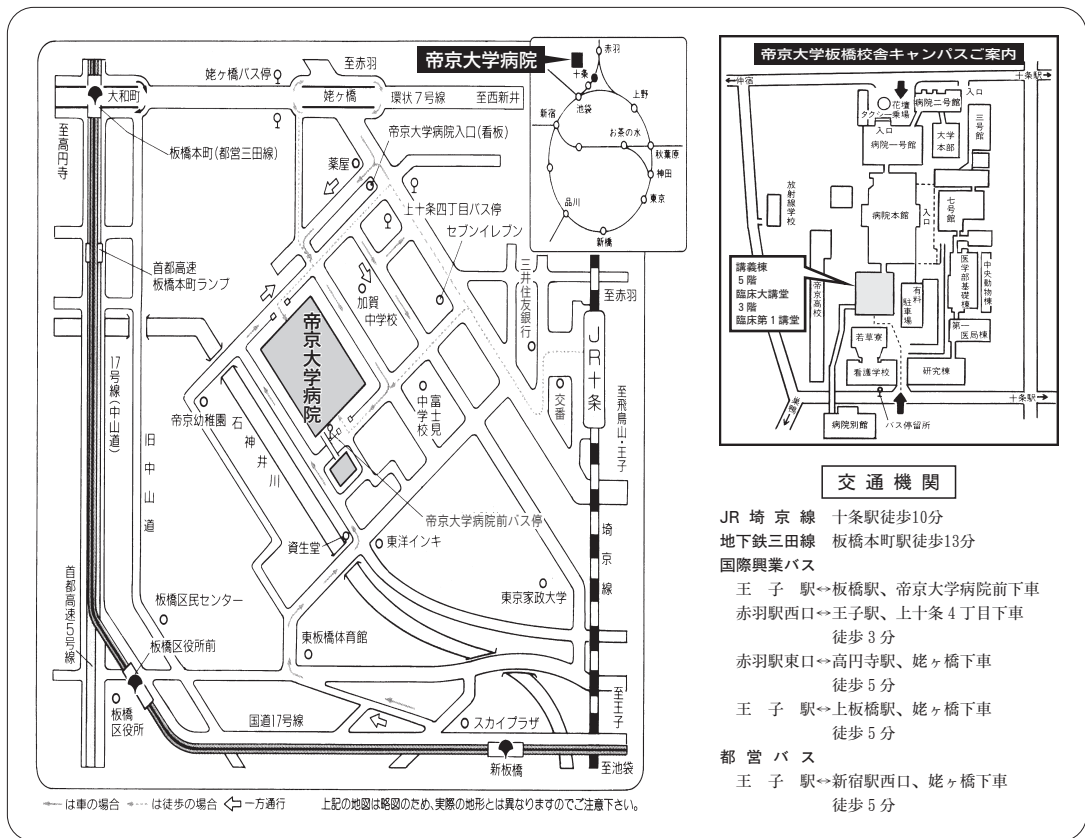
第 545 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プ ロ グ ラ ム

日 時 平成19年 2 月10日(土)午後 2 時00分

場 所 帝京大学講義棟臨床第 1 講堂(3 階)



演題の申し込みについて

1. 講話会の当日、文書で提出してください。
2. 抄録(200字内外)をおつけください。
3. 原則として指定発言者をご記入ください。
4. 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

プログラム係
昭和大学小児科

田角 勝

03 (3784) 8 5 6 5

FAX 03 (3784) 8 3 6 2

会場係

帝京大学小児科

中村 明夫

03 (3964) 1 2 1 1 内線 1 4 8 1

直通 (FAX) 03 (3579) 8 2 1 2

e-mail: pedi@med.teikyo-u.ac.jp

事務局

03 (5388) 7 0 0 7

e-mail: jps-tokyo@umin.ac.jp

第 545 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分, 指定発言 5 分, 追加討論 3 分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:30

座長 北林 耐 (昭和大学小児科)

1) 胎児期からフォローアップした横紋筋腫の 1 例

○中村 隆広, 金丸 浩, 福原 淳示, 市川 理恵, 阿部 修,
宮下 理夫, 鮎澤 衛, 住友 直方, 岡田 知雄, 原田 研介 (日本大学小児科)
久野宗一郎, 山本 樹生 (同 産婦人科)

母親は 19 歳, 初妊初産。妊娠 25 週に心内腫瘍の疑いで当院産科から紹介され, 胎児心エコーで, 右室体部から流出路にかけての単発 (経 17×15 mm) の心臓腫瘍と診断した。以後定期的に経過を観察後, 予定帝王切開により在胎 37 週 4 日で出生し, 出生後に結節性硬化症に合併した横紋筋腫と診断した例を経験したので報告する。

2) 胸痛を主訴に見つかった腫瘍性疾患の 4 症例

○寺尾梨江子, 柳下 恵子, 榊原 オト, 坂口 佐知,
齋藤 正博, 清水 俊明, 山城雄一郎 (順天堂大学小児科思春期科)

小児科外来診療において, 胸痛を主訴に来院する患者にはたびたび遭遇する。小児の胸痛の原因は多岐にわたり, 中でも腫瘍性疾患は見逃してはならないものとして挙げられる。今回, 胸痛を主訴に来院し, 胸部レントゲン所見で発見された腫瘍性疾患の 4 症例を経験した。いずれも生来健康な 9 歳から 15 歳の男児であった。文献的考察を加えて報告する。

3) 親子間で血液型不一致を呈した症例

○助川 玄, 小野 正恵, 北爪 勉, 小川 樹里, 鈴木 淳子 (東京通信病院小児科)

小児科では血液検査施行時に血液型検査も同時に頼まれることはよくある。血液型検査結果による親子間で血液型不一致は家庭内外に様々な問題を生じえる。今回われわれは血液型が重型であり, マイコプラズマ感染により判定が困難となった 5 歳 3 カ月男児の症例を経験したので報告する。

教育講演 14:30—15:00

座長 洲鎌 盛一 (国立成育医療センター)

被虐待児の心のケア～日常臨床の場での実践～

宮本 信也 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)

子ども虐待への対応は, ①初期対応 (子どもの安全確保), ②中期対応 (家族の再統合), ③長期対応 (虐待の再発防止), ④超長期対応 (虐待連鎖の防止) に分けられ, 子どもの心のケアは中期対応に含まれる。被虐待児の心のケアに含まれるものとしては, ①行動問題のコントロール, ②不適切な心理状況の改善, ③発達・学習の保障, ④健全な心の発達支援, ⑤合併する精神障害の治療などがある。小児科の日常診療における被虐待児への対応は, 子どもと関わっている人達への対応の概要の説明と助言が中心となる。これらについて概説させていただく。

第2グループ 15:00—15:30

座長 高柳 隆章（保健医療公社荏原病院）

4）慢性腎不全治療に苦慮した ARPKD（常染色体劣性多発性嚢胞腎）の2症例

○田中絵里子，宮村 正和，三浦健一郎，黒田 奈緒，
久野 正貴，近本 裕子，秋岡 裕子，宮川 三平，
甲能 深雪，伊藤 圭子，服部 元史（東京女子医科大学腎臓小児科）

ARPKD は腎機能障害の程度や肝合併症の有無により臨床像は多彩であり，その治療方針は個々の症例に合わせて決定する必要がある。慢性腎不全に対する透析療法や腎移植の実施に苦慮した ARPKD 2 症例の経過と治療方針の決定について，文献的考察を加え報告する。

5）ファロー四徴症・肺動脈閉鎖・主要体肺側副血行・十二指腸閉鎖を合併した，6q deletion の1症例

○安藤 達也，河内 貞貴，寺野 宏和，藤原 優子，衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学小児科）

胎児期より IUGR，羊水過多を指摘されていた。在胎 36 週 2 日，1883 g で出生。十二指腸閉鎖根治術，体肺動脈シャント術を施行した。染色体検査より，del（6）（q15-21）が明らかとなった。6q deletion は稀な先天奇形症候群であり，欠失の部位によって表現形が異なる傾向が見られるとの報告がある。

6）遺伝子診断が患者の人生観を好転させたと考えうる稀少疾患例

○小崎健次郎，泉 幸佑，高橋 孝雄（慶応義塾大学小児科学教室）
甲田 とも，石河 晃（同 皮膚科学教室）

10 歳頃から色素性乾皮症と診断されてきた難聴＋雀卵斑の 24 歳女性。テレビドラマで同症の不良な予後を知り「絶望の末」当科を受診。MITF 変異を認め，生命予後の良い Tietz 症候群と確定。「検査が不安を払拭」との由。

休 憩 15:30—15:40

感染症だより 15:40—15:50

座長 山本 光興（山本小児科）

岡部 信彦（国立感染症研究所感染症情報センター）

第3グループ 15:50—16:20

座長 新井 勝大（国立成育医療センター）

7）結腸に巨大腫瘍を合併した Schoenlein-Henoch 紫斑病の1例

○森島 靖行，柏木 保代，佐藤 智，呉 宗憲，
河島 尚志，武隈 孝治，星加 明德（東京医科大学小児科）

症例は2歳男児。関節痛，腹痛，鮮血便を主訴に入院し，Schoenlein-Henoch 紫斑病と診断した。安静，13 因子補充，ステロイド投与にても血便遷延した。大腸内視鏡にて回盲部に巨大潰瘍の合併を確認した。出血に注意しステロイドパルス療法を施行し速やかに消化管症状の改善が得られた。若干の文献的な考察を含め報告する。

8) ループス腸炎の1例

○金高 太一, 堀 秀之, 千賀 達子,
江口 博之, 土屋 裕行, 高橋 弘剛 (東京都立大塚病院小児科)
立石 睦人 (同 リウマチ科)

症例はSLEで当科通院中の14歳女性。腹痛、嘔気を訴え当院受診した。入院後の腹部造影CTで著明な腸管浮腫像をみとめ、症状とあわせてループス腸炎と診断した。ステロイドパルス治療にて症状改善し、第24病日に退院した。

ループス腸炎は極めて稀な疾患だがSLE患者の腹痛ではまず鑑別すべきである。文献的考察を含めて発表する。

9) 黄疸で発症し、巨大胆石症を合併したWilson病の1例

○新津 麻子, 三輪 真美, 磯貝 徹也, 別所 文雄 (杏林大学小児科)

10歳女児。黄疸を主訴に来院。血液生化学でAST 770 IU/l, ALT 573 IU/l, T-Bil 10.2 mg/dl, D-Bil 7.3 mg/dl。腹部単純X線で巨大な胆石が存在。セルロプラスミン 25.3 mg/dl (基準値 25mg/dl以上)であったが、尿中Cu排泄 12.5 μ g/kg/日 (基準値 1.5 μ g/kg/日未満)であり、Wilson病と診断した。

第4グループ 16:20—16:50

座長 清水 敬一 (東邦大学医療センター大橋病院)

10) 多発性動脈瘤・狭窄などの頭頸部動脈奇形を伴った先天性小脳形成不全・水頭症の1女児例

○池原 聡, 松裏 裕行, 岡松千鶴子, 嶋田 博光,
中山 智孝, 小原 明, 佐地 勉 (東邦大学医療センター大森病院小児科)

症例は4歳女児。水頭症、右小脳形成不全、脳性麻痺の診断で某大学病院で経過観察していた。今回、増大傾向にある右頸部腫瘍を主訴に当院を受診。高血圧 146/104 mmHg あり、脳血管造影などにより右側の内頸動脈瘤 (1.5×3.0 cm), 外頸動脈高度狭窄、前大脳動脈多発性狭窄・動脈瘤などを認めた。他の心血管系に異常を認めない。

11) 四肢と顔面のジストニアを頻回に繰り返した急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) の1例

○木村 玲子, 伊藤 昌弘, 春山和嘉子, 玉木 久光, 荷見 博樹,
大森 多恵, 國井 陽子, 三澤 正弘, 大塚 正弘, 関 一郎 (東京都立墨東病院小児科)

11歳男児。四肢と顔面のジストニアを繰り返し、MRI画像で視床、基底核、中脳に左右対称性の異常信号域を認めた症例を経験した。ステロイドパルス療法2クール目でジストニアは消失したが、アカシジアが残存したため3クール目を施行し後遺症なく治癒した。灰白質病変を中心とするADEMと考え文献的考察を加えて報告する。

12) 歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症 (DRPLA) と診断された小児の1例

○永峯 宏樹, 三牧 正和, 崎川 牧子, 星野 英紀,
高橋 寛, 水口 雅, 五十嵐 隆 (東京大学医学部附属病院小児科)

14歳男児。2歳半より精神運動退行、ミオクロヌス、全身強直けいれん、小脳失調が出現。父親に体幹失調、構音障害あり。13歳時、画像所見よりDRPLAが疑われた。本症は優生遺伝であり表現促進現象のため家族の発症前診断となる事があり、遺伝カウンセリング後に遺伝子検査を施行。CAGリピートの異常増大を認め確定診断した。

運営委員会だより

1. 1月の講話会参加者167名、新入会11名（会員数1,806名）ベビーシッタールーム利用者2名。
2. プログラムの時間割にゆとりを設けるため次回（第545回）から追加討論を2分から3分以内に延長します。
3. 地方会ホームページを開設いたします。当初はお知らせが中心になりますが、今後、演題応募、年会費の支払い、アンケートや過去のプログラムの掲載にまで利用の拡大を考えています。
4. こどもの健康週間の事業は今年も10月体育の日に都内5公園において開催する予定です。
5. 回目の地方会講話会（2月10日）終了後に幹事会を開催いたします。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。登録事項変更届出用紙をご送付いたします。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡ください。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 TEL：03（5388）7007／FAX：03（5388）5193

Computer Presentation について

Computer Projection による発表を受け付けます。ただし Windows のみで下記要領でお願いいたします。
Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、
第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いいたします。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007／FAX 03-5388-5193

演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿は活字もしくはワープロ文字で）

Computer Presentationでお願いします。

経皮吸収型・気管支拡張剤

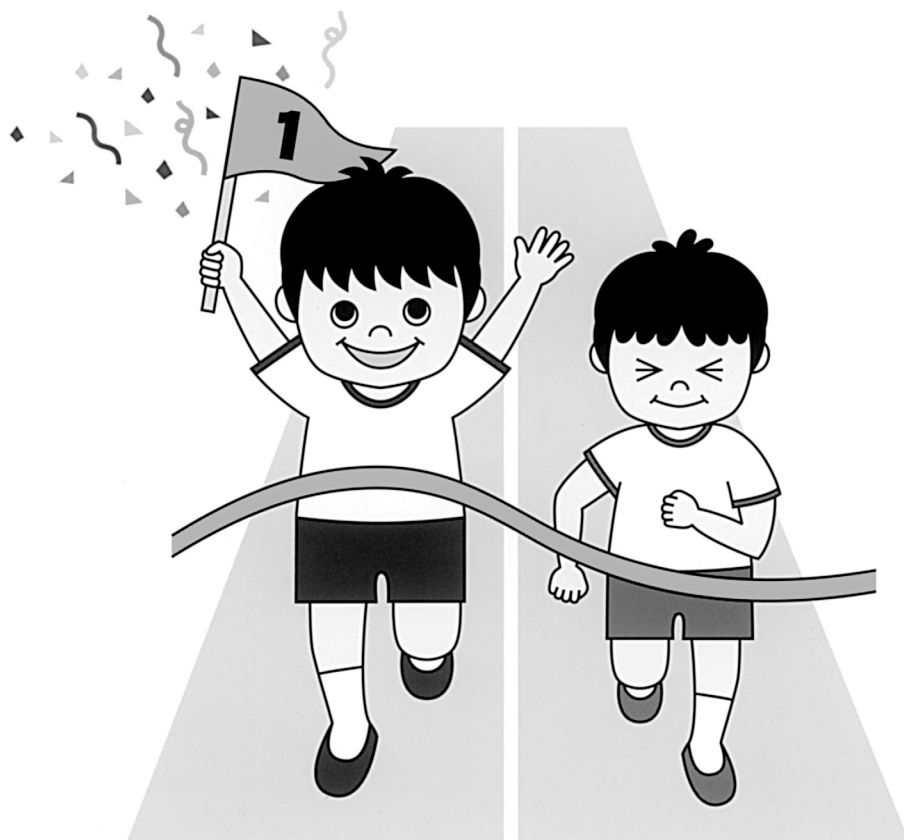
指定医薬品、処方せん医薬品：注意－医師等の処方せんにより使用すること

セキナリン[®]テープ

SEKINARIN[®] TAPE

0.5mg
1mg
2mg

ツロブテロール経皮吸収型製剤



● 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

資料請求先

発売元 **和光堂株式会社**

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造販売元



ジェイドルフ製薬株式会社

〒528-0211 滋賀県甲賀市土山町北土山2739